

 infor

+

 solicon^{IT}

ケーススタディ

Fill社、アナリティクスの活用が400%増え、 製造成果を改善

1966年に設立されたFill Gesellschaft M.B.H.社は、さまざまな産業分野の機械製造において、グローバルスタンダードを確立しています。同社は、ロボティックプロセス、自動化、画像処理、リアルタイムモニタリングなどのコアコンピタンスにおいて、データドリブンを重視しています。従業員数が1,000人を超えるまでに成長したFill社は、カスタムメイドのデータ管理ソリューションでは処理が追い付かなくなり、信頼性の低いデータを生成していました。その理由から、アナリティクスを最新化し、社内ユーザーと顧客の両方に対してパフォーマンス力の回復に努めました。



本社所在地
オーストリア
Gurten Oberösterreich

業種
産業機器製造業

インフォアの製品
Infor® COM Infor Global Financials
Infor Birst、Infor ION

ウェブサイト
fill.co.at

“ Infor Birstを選んだ理由は、信頼するパートナーであるインフォアが提供する先進的なクラウドBIソリューションだからです。他のレポートサービスも検討しましたが、Infor Birstは完成された使いやすいソリューションで、当社のユーザーが適用し、信頼できることが分かっていました。”

MARTIN REITER氏
Fill Gesellschaft M.B.H.社のCSO

新しいパフォーマンス基準の追求

Fill社は、製造業務と販売ワークフローを、データ管理と分析ソリューションに大きく依存し、意思決定の大部分をこのソリューションが担っていました。しかし、時間の経過とともに、旧システムの処理性能が低下してきました。レスポンスタイムは遅くなり、データ出力はチーム全体で信頼を失い、その結果、ユーザーのアクティビティは急激に減少しました。

「データを信用する人は、誰もいなくなりました。特にサービス部門では、カスタムメイドのソリューションが間違った数字を出すこともありました。だから、もう使わないと決めたのです。」と、Fill社の最高販売責任者であるMartin Reiter氏は述べています。

相互に関連する他のシステムの継続的なリリースとアップグレードにより、アナリティクスが適時にできず、相互運用性の課題を残しました。このような背景から、Fill社は、ユーザーが活用したいと思える、意思決定のための実用的なインサイトを提供できる最新のソリューションが必要であると認識しました。「コストのかかる手作業の報告プロセスとデータドリブン意思決定の欠如が、機会損失と非効率を招いていました。」と、Reiter氏は指摘しています。

データとアナリティクスのモダナイゼーション

たとえ速いシステムであったとしても、ユーザーが使いたくないようなシステムには何の意味があるのでしょうか？ Fill社の販売、運用、ITなどの部門のリーダーは、主流をなすビジネスインテリジェンス（BI）システムで部内の従業員がデータを処理しなくなったため、継続的な意思決定のための統一された基準がないことを心配していました。

“ Birstを導入して以来、アナリティクスの活用率が400%も上昇しました。以前は、ごくわずかなプロジェクトマネージャーだけが活用していましたが、今や販売、サービス、調達部門にわたる160名以上のユーザーが、デスクトップやモバイルデバイスから数回クリックするだけで、簡単に信頼できるデータへのインサイトを得られるようになりました。”

MARTIN REITER氏
Fill Gesellschaft M.B.H.社のCSO

ビジネスにおける課題

- 旧来のカスタムレポートソリューションでのBI採用率の低さ
- パフォーマンスが低下しつづけるレガシーシステムでは、新しいソフトウェアとの統合が困難
- ユーザーは、旧システムが生成したデータを信用せず、使用していたワークフローへの信頼が低下
- ERPから直接エクスポートしたデータを使用してMicrosoft Excel™のレポートを作成しなければならず、時間の無駄が発生

本来ならもっとシンプルでわかりやすいはずのアナリティクスやレポートングを、ユーザーはスプレッドシートやデータ入力で管理するようになっていたのです。Fill社は検討の結果、Infor Birst®を採用し、インフォアの長年のパートナーであるSolicon IT社の協力の元、新しいシステムを同社のネットワークインフラに統合することにしました。

再び、インフォアとのパートナーシップを締結

Fill社は、この時点において、Solicon IT社との関係をすでに確立していたため、インフォアのソリューションを選択することは容易なことでした。同社は2000年からインフォアの製品を使用しており、2004年にERPソリューションとしてInfor COM®を統合し、その後も最新のリリースを導入しています。これにより、親しみやすく使いやすいインフォア的环境が全社的に確立され、Infor Birstをエコシステムに加える糸口をつくることに成功しました。

Reiter氏は、「ユーザーの希望は、レポートのレイアウトを旧バージョンと似たようなものにしつつ、新しいものを追加することでした。そのため、旧システムのレイアウトを取り入れることも条件になっていました。」と、語っています。

Infor Birstは、ダッシュボードからアドホックアナリティクスまで直感的に操作できる最新のユーザーインターフェースを提供しているため、ユーザーは大がかりなトランジションやトレーニングをせずに新しいソリューションに移行できます。Fill社は、オールインワンツールであるBirstを活用することにより、データモデリングと統合、データの可視化、アドホックアナリティクス、ピクセルパーフェクトレポートの出力、Webおよびモバイル用ダッシュボードの表示を、以前より少ないメンテナンスの実施で実現できるようになりました。Birstを選択した大きな理由のひとつは、多様なデータソースをまとめて、今までにない新しいインサイトを得るための統一されたデータビューを提供することが容易であることです。

組織全体のスキルの向上

旧システムは主にプロジェクトマネージャーが使用していましたが、現在では約200人のユーザーが新しいInfor Birstソリューションを使っています。そこには販売データも含まれており、販売部門はもとより、サービス部門や調達部門においても、毎日入力されるデータからデータレビューを作成することができます。さらに、誰もが同じデータセットにすぐにアクセスできるため、部門間の管理・監督を改善することができます。

Fill社は、顧客やその他の値で絞り込まれたすべての売上見込を考慮しながら、セールスがあらゆる製造売上を、迅速に確認できるようになったことに満足しています。プロジェクトマネージャーは、個人やチームのプロジェクトにワンクリックでアクセスでき、サプライヤーにおける収益の分析やレポートの出力も、これまで以上に簡単に実施できるようになりました。

Reiter氏は、こうも述べています。「調達部門に関しては、サプライヤーの収益や納入された部品の品質などの概要を把握できるフリーレポートをいくつか用意しています。これらのレポートから非常に迅速に情報を得ることができるので、ERPシステムから更にシートをチェックしたり、抽出したりする必要はありません。」

導入による成果

- 週次販売レポートが可能になり、すべてのユーザーがあらゆるデバイスからオンデマンドで日次報告できるようになった
- 以前は、ごくわずかなプロジェクトマネージャーだけが使用していた状況が、今や販売、サービス、調達、プロジェクトマネジメントにわたる160名ものユーザーが利用できるようになり、アナリティクスの活用率が400%増加した
- レポートが自動化されたことにより、手動で行っていたデータ管理が週40時間以上削減され、バックオフィスチームの生産性が5~10%向上した

戦略的なインサイトと成果の合理化

Birstとの統合は、実装スプリントで実施され、Fill社におけるインフォアの評判は、ERPとBIアナリティクスの信頼できるパートナーとして非常に高まりました。こうしたそれぞれの導入段階を経て、Birstのソリューションは最も使い勝手が良くなるようにカスタマイズされ、インフォアは企業全体で使用され続けています。

各部門の日常業務が効率化され、異なるどの部門も同等に、実用的なデータを見ることができるようになりました。これにより、全体的な生産性が向上し、以前より良い販売戦略を立てることができるようになりました。Fill社は、信頼できるデータ分析ソリューションの導入により、生産性の向上、コストと時間の削減を実現し、前進することに意欲的です。

詳しくはこちら [➤](#)



インフォアは、業界特化型のビジネスアプリケーションをクラウドで提供しています。17,000人の社員が、175か国以上で65,000以上のお客様のビジネスを支援しています。詳しくは、www.infor.com/ja-jp/ をご確認ください。